

ヨシでびわ湖を守る
ネットワーク通信

21

VOL.



4月のヨシ原風景（ヨシ焼き後）

刈り取りシーズンを終えたヨシ原では、ヨシ焼きが行われ、そろそろ新しい新芽が芽吹き始めています。ネットワークで開催した3回のヨシ刈りは、一番の心配だった天候にも恵まれ総勢500名を超えるヨシ刈り仲間が集まりました。もうベテランとなられた方、今期初デビューされた皆さん、それぞれの思いを巡らせながらのヨシ刈りボランティア体験だったことでしょう。毎年冬の恒例となったこのイベント。皆さまと共に築き上げて来たこの活動を継続する事が一番大切です。

これからも、皆さんのお力を借り魅力ある活動を進めて参ります。

まだ、参加されたことのない皆さん、一度体験してみたいはかがですか。

きっと清々しい気持ちが味わえますよ。

びわ湖を知る ■ 問題



日本の在来魚を脅かす侵略的外来種の魚はどれでしょうか。

- | | |
|----------|---------|
| ① オオクチバス | ② ワカサギ |
| ③ カムルチー | ④ ブルーギル |

特集 1ページ

滋賀県立琵琶湖博物館 学芸技師
渡部 圭一様 より

近江の「虫送り」から学ぶもの

毎年7月から8月にかけて、滋賀県の農村では、稲につく虫の害を防ぎ、その年の豊作を祈願する祭り「虫送り」があちこちで執り行われます。祭りといっても、たとえば5月の連休に滋賀県各地でいっせいに開催される春祭りの神輿行列の迫力みたいなものではありません。それでも夏の日暮れの田んぼのあいだの道を、松明の明かりがゆらめきながら行列になって進む様子はとても幻想的です。虫送りは秋の季語でもあります。

虫送りは、近世(江戸時代)には全国各地に定着し、地域によって虫追いや虫祭りなど多彩な名前でよばれてきました。多くは年1回、日を定めて村(自治会)の人びとが集まり、総出で行列をつくり、賑やかに集落を練り歩くスタイルをとります。村全体に降りかかる災厄を防ぎ、みんなで稲作の順調を願うところがポイントです。このような行事のことを民俗学では共同祈願と呼んでいます。



写真1・2：野洲市大篠原の「イモチ送り」（1999年7月、野洲市歴史民俗博物館提供）

【虫送りとその自然認識】

今も続く虫送りの一例として、滋賀県野洲市大篠原の「イモチ送り」を紹介してみます(写真1・2)。過去の報告をみると、毎年7月23日ころ、まず参加者が長さ1間ほどの松明を持ち寄ります。かなりの長さ、重さです。神社で神職に火をつけてもらい、「イモチおくれー、田の虫おくれー」と叫びながら田んぼを回り、さいごに村外れで松明を燃やしたとあります(野洲町立歴史民俗資料館編1991『野洲の年中行事』野洲町)。独特の唱え言には、一種のまじないとしての虫送りの性格が表れています。

大篠原のイモチ送りは、担い手の高齢化などを理由にいったん中断されましたが、15年ほど前に、夏休み中の子ども会の行事として復活しました。やや小ぶりになりましたが、現在でも菜種の松明が作られています。竹の芯に乾燥させた菜種殻を巻きつけ、荒縄で縛った作りです。材料の確保は各地で悩みの種になっていますが、幸い大篠原では在所の農家の後継者のなかで、菜の花漬けの原料として栽培に取り組んでいる方がいて、菜種殻の提供を受けているそうです。

ちなみにここでいうイモチって一体なんですか。近世までの日本では、稲作害虫のことを「蝗(イナゴ)」の1文字で表記してきました。現在でも神職の祝詞などでこの文字を使うケースがあります(大篠原でも神社側では「蝗除祭」といっています)。一見すると、コバネイナゴなどOxyaという属の昆虫のようですが、実際には、もともと蝗の字に「いなご」の訓みをあてる慣習はありませんでした。

特集 2ページ

あえて「蝗」の正体を探すなら、多くはトビイロウンカをはじめとする稲ウンカ類の数種に相当するようですが(小西正泰1992『虫の文化誌』朝日新聞社)、近世の社会では主に「いなむし」とよまれ、稲を加害する虫の総称として用いられています。同じように、イモチという言葉も、いもち病として特定されるものではなく、総体としての稲の異状を指す民俗語彙(ミンゾクゴイ…地元で使われている言葉)として受け取っておきたいと思います。

【近江の虫送りにあるもの・ないもの】

虫送りは全国各地で多彩なかたちで継承されています(写真3・4)。そのなかでも滋賀県の虫送りにはいくつの特徴があるようです。ひとつは松明の「火」を中心にした夜間の行事が多数を占める点です。一般に西日本の虫送りでは、虫の害をもたらす元凶を非業の死者に見立て、藁(ワ)などで作った人形に託してその元凶を送り出そうとしますが、この儀礼は近江では一部でしか見られません。松明といえば、近江八幡の火祭り行事で、ヨシをふんだんに用いた勇壮な松明が登場するのが著名ですが、虫送りの松明は主に菜種殻と竹を用い、行列に加わる人々が個別に手にするスタイルをとります。虫送りの松明自体の分布は全国的ですが、近江の火祭り文化のなかで虫送り松明がどのような位置にあるのかは少々気になる課題です。

もうひとつの特徴として、虫送りが一つの地区では完結しないケースをしばしば目にします。隣り合った地区どうしで日程をあわせて実施する事例から、ときには一つの地区から隣の地区へと松明の火を送り継いでいく事例もあります。このように虫送りを共同実施する範囲は、しばしば水利圏とも関わっているようです。たとえば前述の野洲市の各地では、ユノボリやユマツリといって、特定の水源を使う地区が共同して水路の清掃や点検をする行事がみられますが、虫送りのエリアもこれと一致する場合があります。虫送りに刻印された、農村の人びとによる水資源の管理や環境の利用のあゆみを読み解いていくことも今後の大きなテーマです。

【なぜ虫送りを調べるのか】

虫送りは、近代以降の農業関係者の間では否定的に捉えられてきました。なにしろ虫を殺すという観点で振り返れば、虫送りは非合理的で、非科学的です。昔の百姓は虫害に対して手をこまねいているだけで、せいぜい虫送りに頼りしかなかった、といった冷たい評価を下す研究者もいます。つまり江戸時代の人びとは私たちとは違い、虫害に積極的な介入をしなかったというわけです。これはまた昔の人びとは自然と“共生”していたといった、ノスタルジックな歴史観と紙一重かもしれません。

しかし、こうした見方では虫害に取り組んできた過去の必死の営みに迫ることはできそうにありません。だいいち現実的にいって、稲を作る人びとが虫害に対して何もしなかったはずはないのです。これは仮説にすぎませんが、現代の私たちがそうであるように、かつての虫送りに虫送りなりの工夫や変化があったのではないのでしょうか。そうやって近世の社会を舞台にした虫送りの軌跡を跡づけていくことは、過去の文化の営みをフェアな観点で振り返るための大切なレッスンにもなると考えています。



写真3 : 埼玉県皆野町立沢の「虫おくり」
(2014年8月、筆者撮影)



写真4 : 岩手県二戸市中沢の「虫追い祭り」
(2005年7月、筆者撮影)

ネットワーク 広場

東田電機産業（株）彦根支店 小西 弘高 様 より



我々、東田電機産業株式会社は滋賀県彦根市に本社を置く電設資材・制御機器の総合技術商社です。
会社設立67年を迎え、滋賀県を中心にユーザー様と数々のメーカーを繋ぎ商売をさせていただいております。

特に、昨今の電力事情によりお客様の要望は、LED照明器具や高効率な空調機器への更新や駆動機のインバータ制御など、省エネ機器案件が多くなっております。一般住宅から店舗、事務所、工場まで様々な用途での対応、機器の販売は元より技術提案、システム構築、施工工事まで対応させていただくことが出来ます。



2012年よりネットワークのメンバーに加入し、ヨシ刈り、外来魚駆除釣り大会、カヌー体験に少人数ではありますが、毎回楽しく参加させていただいております。



滋賀県の企業として「ヨシでびわ湖を守るネットワーク」に賛同する皆さまと様々な活動を通して共栄して行きたいと考えております。今後とも、お引き立て宜しくお願い致します。

東田電機産業株式会社 営業拠点のご紹介

本社/彦根支店	〒522-0027 滋賀県彦根市東沼波町190-1	TEL 0749-23-2311 FAX 0749-23-2315
長浜支店	〒526-0845 滋賀県長浜市小堀町210-3	TEL 0749-63-2711 FAX 0749-63-2720
栗東支店	〒520-3026 滋賀県栗東市下鈎841-1	TEL 077-552-3651 FAX 077-552-3661
甲賀支店	〒528-0024 滋賀県甲賀市水口町中邸5-55	TEL 0748-63-7371 FAX 0748-63-7375

東伸電機(惠州)有限公司 ※東田電機産業(株)100%出資の中国現地法人

今シーズン ヨシ刈りアルバム

2014年12月6日(土) 伊庭内湖ヨシ刈り



シーズン最初のヨシ刈りは、小雪の舞う寒い一日でしたがネットワークの皆さんと地元の方が協力して伊庭内湖のヨシを刈り取りました。(ネットワーク参加者116名)

2015年2月7日(土) 第一弾 西の湖ヨシ刈り



西の湖ヨシ刈り第一弾は、晴天に恵まれ予想を遙かに超える260名が集まりました。この日は初めて高校生が参加。報道関係も数社取材が入り、暖かな日の中水分補給をしながらの作業となりました。



今シーズン ヨシ刈リアルアルバム

2015年2月21日(土)第二弾 西の湖ヨシ刈り



西の湖ヨシ刈り第二弾、この日も前回を超える素晴らしい快晴日となり、160名の皆さんがヨシ刈りに汗を流しました。新たな仲間も加わり今シーズン最後のヨシ刈りを和気あいあいと楽しみました。

《今シーズン参加された企業・団体さま》

「敬称略」

東田電機産業(株)3回 近畿環境保全(株)3回 旭化成住工(株)3回 (有)本杉工機2回 フジテック(株)2回
(株)ダイフク2回 (株)パナホーム滋賀2回 キューピー醸造(株)2回 (株)伊藤園2回 澤本印刷所2回
(株)ノビア2回 (株)柿木花火工業2回 琵琶湖博物館2回 (株)たねや2回
京セラ(株) 大冷工業(株) 日本電産(株) 近江ユニキャリア販売(株) 住友生命保険 (株)ラーゴ
積水樹脂(株) スペーシア(株) 積水樹脂電子テクノ(株) スミ利文具店 フラワーショップふじよし
びわ湖エコアイデア倶楽部 びわ湖パナソニックファミリー会 パナソニックエコリレージャパン
三菱重工(株) (株)日に新た館 レンゴー(株) 夏原工業(株) コーブしが (株)京進 じゃらん
全国高等学校総合文化祭 三菱製紙販売(株) 三菱商事関西支社
東近江水環境自治協議会 安土町商工会 (株)コクヨ工業滋賀

お疲れ様でした。来シーズンも皆さまのご参加をお待ちしております。(*^o^*)

みんなの リエデン



リエデンプロジェクト～第1回「買うエコ大賞」大賞を受賞

【「買うエコ大賞」とは】

「買うエコ大賞」は、滋賀GPN(グリーン購入ネットワーク)が滋賀県より委託を受けて、環境に配慮した滋賀県産の商品(原料が滋賀県産のものも含む)やサービスを幅広く募集し、審査会で選ばれた商品・サービスを、ウェブサイトや県内メディアを活用して紹介し、一般投票で大きな支持を得られた商品・サービスを表彰する制度です。「滋賀県産エコ商品の普及拡大」を目的としています。

『大賞の審査員評価コメント』

一般投票、有効投票2311の内、最多得票733を獲得。最も多くの支持を集めた。「ヨシ」はびわ湖の水環境や生態系に役立つが、冬場に人の手で刈り取る必要とその有効活用が重要である。この商品は、ノートの中紙などにヨシを配合するなどして利用。また、毎年社員でヨシ刈りを行い、100社を超えるネットワーク活動へと広げ、売上の一部をびわ湖の環境保全活動をしている複数団体に寄付するなど、正に「大賞」にふさわしい。



ヨシでびわ湖を守る
ネットワーク

『大賞を受賞して』

この取り組みを支えて下さったネットワーク会員企業、団体の皆さまには心より感謝致します。これを機にネットワーク活動の輪を更に広げ、県内にとどまらず全国に発信出来る活動を進めて行ければと考えています。

皆さまの変わらぬご支援を宜しくお願い致します。

買うエコ大賞 ネット商品・サービス
第1回 KAUECO GP 2014

**ヨシからできたエコ文具
「ReEDEN(リエデン)」**

滋賀県で1992年に制定された「ヨシ群落保全条例」に基づき、琵琶湖のヨシを活用し琵琶湖の自然環境を保全・維持するために開発された商品シリーズ。カラフルなものや伝統産業とコラボしたノート、名刺等の種類がある。同時にヨシ原を育てる活動もスタートし、現在では100社以上が賛同するネットワーク活動になっている。売上の一部を琵琶湖の環境保全を行っている複数団体に寄付。

【応募者】株式会社コクヨ工業滋賀

びわ湖を知る ■ 解答

- ①オオクチバス ④ブルーギル

淡水魚では8種が指定されているそうです。

みんなの リエデン

びわこ文具
Let's enjoy
Lake Biwa!

¥350
(税抜)

びわこ・滋賀の魅力が
つまった文具が続々登場！



琵琶湖・淀川水系のヨシを使用し、琵琶湖にまつわる絵柄を木版画のようにデザインしたヨシメッセージカード



しが旅マスキングテープ
幅12mm×10m巻き



びわこふせん
各柄15枚入り

数量
限定

販売店情報はブログ
「リエデンの日記」
にてご覧いただけます



琵琶湖のヨシを使用した
面白・不思議ふせん！

- 滋賀を巡る様々な旅のシーンや、代表的な特産物をデザインしたマスキングテープ。
- 「旅のお供ノート「たびあと」」の帯に描かれたほのぼのとしたイラストを採用しています。

- デザインは琵琶湖の形をした「びわこ」のほか、「カイツブリの足」「ナマズのおっぽ」といった琵琶湖の生物達の身体の一部をモチーフにしました。ヨシの風合いに合わせ柔らかいシルエットです。



交通安全 × 環境保全

- 滋賀ではお馴染みの「飛び出し注意」を呼びかけるとび太くんと、ヨシでびわ湖を守るリエデンのコラボ文具です。ノートとふせんが登場！

¥200
(税抜)

とび太くんヨシノート



とび太くんふせん
20枚入り



¥350
(税抜)



とび太くん商品の
売上の一部が、町
の交通安全・新たな
とび太くんの製作に
繋がります



台紙を折り目で山折りにし、「ふせんスタンド」としてご使用いただけます